



# 元気っ子

No.261 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

平成が終わり、令和という新しい時代が始まりました。令和を生きていく今の子どもたちですが、平和で穏やかな時代であってほしいと願うばかりです。

季節が過ぎるのは早いもので、入園式が終わったと思ったらもう五月に入りました。ゴールデンウィークは例年にない大型連休になりました。サービス業などお休みでなかった方々もおられたかと思いますが、それぞれが様々な過ごし方をされたのではないかと思います。

私はこの連休を利用して同世代の僧侶仲間と、かねてから計画をしていた高野山参拝旅行に行ってきました。高野山は平安時代に弘法大師空海が修禅の道場として開いた日本仏教の聖地です。パワースポットとしても有名で、世界遺産にも登録されており、真言密教の聖地(総本山金剛峯寺)だけあって、その立地は和歌山県の標高 800mの山の上に一つの宗教都市として存在しています。大阪難波から南海電車で「極楽橋」という何ともありがたい名前の駅まで向かい、そこからはロープウェイで高野山駅まで上ります。ロープウェイに揺られながら本当に何も無い山の景色を眺めていると、「どんな山奥の寺院なんだろうか、何百段も階段を上らされたりしないだろうか」と不安になるのですが、到着するとそこは本当に宗教「都市」が形成されていて驚かされました。寺院がたくさんあって人が住んでいるだけではなく、そこには銀行も病院も学校もそしてコンビニまでもがあり、あのロープウェイからの景色からは想像もつかないものでした。



その街並みを通り抜けた一番奥に「奥の院」があります。入口には「一の橋」という小さな橋がかかっており、ここから約 2kmに渡って参道沿いに約 20 万基の墓石や供養塔が密集しています。まさに高野山参拝(観光)のハイライトと言ってもよいかと思います。数多くの外国人旅行者もここを目指して来ます。この参道に入ると、その何とも言えない凜とした空気、僧侶の読経などその荘厳な雰囲気によって圧倒されます。そしてまず目がいってしまうのは有力な戦国武将たちのお墓や供養塔です。伊達政宗の墓所があったり、武田信玄、上杉謙信、織田信長などなど有名どころはほぼ網羅されていました。明智光秀の供養塔には「何度新しい石にしても、しばらくすると石にヒビが入ってしまう、これは明智光秀の怨念によるものだから」というエピソードもあるそうです。ここにはそういった歴史的な人物だけでなく、一般の方々のお墓もあり、まさにあらゆる人達を包み込んでしまう神聖な空間だと思います。こうして数えきれない墓や供養塔を見て「御廟の橋」まで来れば、その先は弘法大師空海の御廟の霊域になります。ここは弘法大師空海が今も瞑想を続けていると言われていています。ここでもしっかりと参りをさせて頂き、行きの参道とは違った参道で引き返すとそこにはパナソニックの墓所やシロアリ駆除会社のシロアリ供養塔があったりと、行きの参道とはまた違った雰囲気でした。



初めての高野山参拝でしたがとても惹かれるものがありました。保育園の子どもたちにはまだ少し早いかもかもしれませんが、小学生くらいになったら是非ご家族で行かれてみると面白いかもしれません。子供たちはあの静かな、凜とした空間の中でどんなことを感じるのでしょうか。